

神奈川の中世城館（1）

中世プロジェクトチーム

はじめに

中世の城や館を題材とした研究は以前から注目され、近年さらにその進展は著しいといえる。本プロジェクトでは伝承地における発掘調査資料の増加に伴い、考古学による検討を加えることを目的として「神奈川の中世城館」と題し、今回から検討を行いたい。

神奈川県内には中世城館とされる伝承地は多く、県史・市史などで紹介されている。この中世城館の中から、今回はまず基礎資料の集成として、発掘調査が行われている遺跡を取り上げることとした。

例言

1. 本集成で扱う中世城館とは、防御を目的として構築された城・砦・堀・土塁・柵などによって囲まれる施設・場所の総称であり、このほかそれらによって区画された屋敷・館・造成などを含めている。
2. 本集成は、発掘調査が行われ、発掘調査報告書が刊行されている(2008年3月現在)神奈川県内の中世城館を対象としている。そのため、伝承地ではあるが、発掘調査が行われていない、発掘調査からは伝承地のような成果が得られていないといった遺跡は集成の対象としていない。
3. 鎌倉市に関しては、武家屋敷地と推定される遺跡は数多く存在するが、中世都市として多様な土地利用があったことが、近年の発掘調査の成果や先行研究から分かってきており、遺跡名などから、一概に個々の遺跡の性格について断定できない状況がある。よって今回の集成では遺構などから武家屋敷地と概ね推定されている遺跡や可能性の高いと考えられる遺跡のみを取り上げた。
4. 小田原市に関しては、発掘調査例が多く紙面の都合上次回以降への継続課題とした。そのため今回は集成の概要についてのみ報告する。
5. 集成表の項目は以下の通りである。
 - (1)名称：名称は、原則的に伝承名や史料による呼称をそのまま使用し、呼称が複数ある城館については、最も一般的と思われる呼称を使用した。なお中世城館と報告されているが、名称が不明なものは空欄となっている。掲載順は、神奈川県の行政順とし、各市町の順番は五十音順で行った。
 - (2)遺跡名：原則的に発掘調査報告書に記載されている遺跡名を使用した。一部、現行の神奈川県埋蔵文化財包蔵地台帳に基づき、文献とは異なる遺跡名を使用しているものもある。
 - (3)所在地：発掘調査が行われた住所・地番を示している。なお、合併により変更となった住所・地番に関しては、新住所・新地番へ変更した。
 - (4)概要：発掘調査によって検出された遺構を中心にまとめ、記載内容は報告書に準じている。
 - (5)文献番号：末尾の文献一覧に対応する。

横浜市

名称	遺跡名	所在地	概要	文献番号
茅ヶ崎城	茅ヶ崎城址	横浜市都筑区茅ヶ崎町 650 番付近	城址は、“じょうやま”と呼ばれ、早渕川南岸の低位台地に先端部に位置する。中郭・北郭・西郭・東郭・東下郭・東北郭の6郭と根小屋地区で構成される。1990年に、郭ごとにトレンチ調査が実施される。遺構は、空堀、土塁、溝状遺構、ピットを検出。遺物は、かわらけ、国産陶器、銭貨が出土。	1
		横浜市都筑区茅ヶ崎町 630 番付近	1993年に、中郭と西郭でトレンチ調査が実施される。遺構は、空堀、土塁、柵列、溝状遺構、土坑、ピット、地業面を検出。遺物は、かわらけ、国産陶器、金属製品、銭貨が出土。	2
		横浜市都筑区茅ヶ崎東二丁目 25 番	1994・1995・1998年に城跡の中郭・北郭・西郭・東郭・東下郭・東北郭の6郭でトレンチ調査が実施。遺構は、空堀、土塁、土橋、竪穴住居、掘立柱建物、道状遺構、柵列、溝状遺構、火葬墓、土坑、ピット、地業面を検出。遺物は、かわらけ、舶載磁器、国産陶器、鉄滓、金属製品、銭貨が出土。	3
		横浜市都筑区茅ヶ崎東二丁目 25 番	2003・2005年にトレンチ調査が実施。遺構は、空堀、土塁、道状遺構、土坑、井戸、ピット、地業面を検出。遺物は、かわらけ、国産陶器、石製品が出土。	4
長尾砦	長尾砦	横浜市長尾台 350 番ほか	泥岩地業で平場を造り、段状に造成しているのを検出。城郭を形成する一施設とみられる。	5

川崎市

名称	遺跡名	所在地	概要	文献番号
小沢城	小沢城跡	川崎市多摩区菅	尾根を削平し平場を開削して、堀割、切岸、土塁を構築している。堀をもって城の内外を区画している。	6

横須賀市

名称	遺跡名	所在地	概要	文献番号
衣笠城	衣笠城跡	横須賀市衣笠町	城跡内の経塚の再発掘調査が実施される。出土遺物から、三浦氏との関連が指摘されている。	7
		横須賀市衣笠町 1161 番	横浜横須賀道路建設に伴いトレンチ調査が実施。土橋状遺構、平場、切岸が検出されている。	8
		横須賀市衣笠町	1981・1982年度に実施された分布調査の結果として報告されている。	9
		横須賀市衣笠町 707 番 1	1991年に宅地造成に伴い範囲確認調査が実施される。伝大手口から下段平場へ続く二つの谷に挟まれた丘陵上で、大手口方面の防御を意図した平場を検出。	10
	尾崎南地区遺跡	横須賀市衣笠町 746	1998年に道路工事に伴い調査が実施。5ヶ所の平場と各平場間に位置する4ヶ所の切岸を確認。(概報)	11 12

佐原城	佐原城址	横須賀市佐原三丁目 1129 番ほか	平作川と矢部川を望む舌状台地上に位置する、三浦大介義明の七男佐原十郎義連の居館と伝えられる城跡。1991 年度に個人住宅建設のためにトレンチ調査を実施。小ピットを伴う削平面を確認。	13
		横須賀市佐原三丁目 1234 番 1 ほか	2001 年度に横浜横須賀道路建設に伴い調査が実施される。城跡に関連すると考えられる段切が検出される。遺物は、舶載磁器、国産陶器、かわらけ等が出土。	14
		横須賀市佐原三丁目 1131 番ほか	2007 年度に前回の横浜横須賀道路建設に伴った調査の残地部分として実施される。調査では、城跡に関係する遺構は検出されなかった。	15
太多和城	太多和館跡	横須賀市太田和	1994 年と 1995 年に確認調査を実施。遺構は未検出、丘陵の平坦面からかわらけを主体とした遺物が少量出土。	16
奴田城	吉井城山	横須賀市吉井 735 外	1978 年の確認調査では、泥岩塊で構築された炉跡、1992 年の確認調査では 2 条の空堀と土橋状遺構が発見されている。	17

平塚市

名称	遺跡名	所在地	概 要	文献番号
岡崎城	岡崎城跡	平塚市岡崎ほか	御殿、梯子郭、追手、二ノ郭、岡崎神社裏、屋敷、下谷戸で調査が行われ、堀、堀状遺構、溝状遺構、土壘状遺構などが検出された。土層断面などから各遺構は岡崎城と関連するものが大半。	18
	岡崎城跡 A	平塚市岡崎字王御住 5 番、897 番 1	溝 4 条、ピット 14 基が検出され、これらは通路を防衛する堀および柵である可能性も否定できないとする。	19
	岡崎城跡 B	平塚市岡崎字桜畠 6205 番、3140 番ほか	曲輪状遺構とそれに伴う掘立柱建物跡 4 棟が検出された。城郭関連遺構であるならば、泥田状の低湿地によって扼された腰曲輪的な遺構と解釈される。	20
	桜畠遺跡	平塚市岡崎字桜畠 6376 番 5	館跡、溝状遺構、道路状遺構、柱列遺構、土壘状遺構が検出され、岡崎城との関連を考えるならば、立地から城南部の方形囲郭の一部と考えられ、外郭的性格を持つものとなろうか。	21
		平塚市岡崎字桜畠 6395 番ほか	外郭と推定される台地上から南側 3 段、北側 2 段の曲輪状遺構を確認。また、版築遺構も確認された。	22
		平塚市岡崎字宮上 2648 番 1 ほか	柵列を伴った掘立柱建物跡が確認される。岡崎城跡 B から検出された方形居館と関連する可能性もある。	23
	山王久保遺跡	平塚市山王久保 3652 ほか	切岸状遺構が検出された。現状の形態になったのは近世以降であるが、ローム削平自体は中世に遡る可能性がある。	24
	山王久保遺跡 岡崎城跡 B	平塚市岡崎字山王久保 3658 番 12 ほか	台地の東向き斜面から曲輪の一部と考えられる遺構が検出された。	25
		平塚市岡崎字山王久保 3 番、653 番 1	三段に削平された切岸状遺構が検出された。腰郭の外側に造られた城郭関連遺構の可能性がある。	26

岡崎館	御所ヶ谷遺跡	平塚市岡崎字御所ヶ谷、字柳久保	掘立柱建物跡とそれを囲繞する溝が検出された。出土遺物から12世紀前半と考えられ、岡崎館と関連した居宅と考えられている。	27
片岡砦(城)	片岡遺跡	平塚市片岡字宮ノ前 1250番ほか	現況で5つの郭と「入隅」状の屈曲が確認された。トレントからは版築遺構、溝状遺構が検出され、溝は箱堀の可能性も考えられる。	28
			縦堀状遺構が検出された。断面形はU字状を呈し、底面に3段のテラスを持つ。	29
	今宮遺跡	平塚市北金目 1117番ほか	テラス状遺構が検出された。性格付けは困難であるが、外郭に関連する遺構の可能性も考えられる。	30
	大久保遺跡	平塚市北金目 1117番ほか	確認した地業面は北方台地側で城郭遺構の法面に続くと思われ、真田城に関連する遺構と考えられる。この城郭遺構は王子ノ台遺跡の立地する舌状台地を取り巻いている可能性が強い。	31
真田城	王子ノ台遺跡	平塚市北金目 1117番ほか	台地端部の自然傾斜を利用して2段にわたって作り出したテラス状遺構が確認された。帯曲輪の一部であると考えられる。	32
		平塚市北金目 1117番ほか	堀状遺構、テラス状遺構が検出されている。堀状遺構は位置・形状・規模から真田城との関連が考えられるが、構築時期が不明であることなどから判定には慎重を要する。	33
真田・北金目遺跡群		平塚市真田 25番ほか	真田城の中心域とされる天徳寺寺域周辺の調査を行い、版築状の盛土、溝などが検出されている。	34
		平塚市北金目字宮久保 1422番2ほか	細長い入り口部と長方形の本体といった横穴状の遺構が検出された。真田城へと通じる道路際に位置することから、関連の遺構とも推測される。	35
		平塚市真田字寺尾 59番ほか	城址と推定される台地の先端部である10区から関連遺構が発見されている。台地丘陵縁辺部を巡る堀や虎口などが確認されている。	36
		平塚市北金目 1575番ほか	遺構を多数検出。真田城中心部分の10E区から検出の堀は、堀底に帶水していた可能性が指摘されている。主郭西側の32C区からは、硬化面とそれに伴う建物跡などが検出されている。	37
田村館	田村館跡	平塚市田村 6252番8ほか	田村館跡推定地の東端にあたる。溝状遺構などが検出されている。	38
豊田館 (豊田堀の内)	豊田本郷	平塚市豊田本郷	住居址や井戸のほか屋敷を巡る堀などが検出されている。居住的、生産的、信仰的な側面の遺構が錯綜して検出された。	39
堀ノ内館 (藤間豊後守屋敷)	堀ノ内館跡	平塚市南金目字堀ノ内 871番	堀状の水路の一部が検出されている。その堀状遺構の内側からは、土間状遺構、礎石が確認されている。	40
		平塚市南金目字堀ノ内 871番3ほか	館の西側を巡る堀状遺構が検出された。堀は当時から冠水していたと推測される。	41

吉沢館	上吉沢市場地区遺跡群	平塚市上吉沢字市場 1495 番 ほか	方形居館の北辺、東辺が調査され、土塁や堀が検出された。	42
	高林寺遺跡第 7 地点	平塚市四之宮字諫訪前 449 番、450 番ほか	第 7・9 地点検出の溝状遺構は再検討の結果、第 12 地点から検出された溝状遺構と一連の遺構であると推測される。検出された溝は方形の区画をなし、出土遺物から 13 世紀代と考えられる。溝は護岸と見られる土層が観察されることや、二段薙研に近い傾斜を示すことから、方形区画は居館の可能性が指摘されている。	43
	高林寺遺跡第 9 地点	平塚市四之宮字諫訪前 44 番 1		44
	高林寺遺跡第 12 地点	平塚市四之宮 445 番		45

鎌倉市

名称	遺跡名	所在地	概 要	文献番号
	今小路西遺跡	鎌倉市御成町 625 番 3	3 面から北側、南側武家屋敷を検出。特に北側屋敷は幕府重職クラスの邸宅とみられる。また貿易陶磁も大量に出土。	46
公方屋敷	公方屋敷跡	鎌倉市浄明寺三丁目 143 番 2	道路・側溝・井戸・かわらけ溜まりなどが検出される。	47
		鎌倉市浄明寺三丁目 151 番 1 外	六浦路の軸線を踏襲した 2 棟の建物址が検出される。	48
	杉本寺周辺遺跡群	鎌倉市二階堂字杉本 912 番 1	新旧 2 時期の大型の武家屋敷を検出。和田、杉本氏関連か。	49
玉繩城	玉繩城跡	鎌倉市城廻字城宿 357 番 2・15	南北方向に走る 3 段の犬走り状の平場を検出。本丸西隣の「くいちがい」平場に相当か。	50
		鎌倉市城廻字中村 654 番 1 外	切岸・通路・溝・やぐら等を検出。玉繩城関連の遺構と推定される。	51
		鎌倉市植木字相模陣 374 番 ほか	堀 2 基、うち 1 基には土橋が付設される。玉繩城周辺に配されたとみられる 2 つの武家屋敷地を発見。掘立柱建物・礎石建物等を伴う。	52
		鎌倉市城廻字清水小路 673 番 10	岩盤を削平し、2 面の平坦面に、溝を造成した状況を確認。	53
		鎌倉市城廻字中村 478 番 3	主に近世の遺構を検出。直接玉繩城に関連する遺構はなし。	54
		鎌倉市植木字植谷戸 70 番 1 外	後世の削平が顕著で、中世の遺構は土坑 1 基のみ。	55
		鎌倉市植木字植谷戸 198 番 の一部	5 面の地業面とそれに伴うピット・土坑・溝などを検出。溝によって軸方向が統一的な状況が確認される。	56
		鎌倉市植木字相模陣 425 番 3 外	土墨に囲まれた地業面・通路状遺構・溝状遺構・ピットなどを検出。南側の土墨が「えんしょうぐら」と御廄郭を画する土墨と想定される。	57
		鎌倉市植木字植谷戸内	掘立柱建物柱址・溝・土坑・井戸などの遺構群を検出。生活空間か寺院か。	58
北条時房・ 顕時邸	北条時房・顕時邸跡	鎌倉市雪ノ下一丁目 264 番 4	若宮大路沿いの有力御家人屋敷地と考えられ、3 面時などで三方に縁の付く大型の礎石建物が検出され、また大量のかわらけ廃棄がみられた。	59

藤沢市

名称	遺跡名	所在地	概 要	文献番号
御弊山砦	御弊山遺跡	藤沢市藤が岡四丁目 1 番 1	掘立柱建物址、ピット群、土坑等を検出。主体は近世。	60
二伝寺砦遺跡	二伝寺砦遺跡	藤沢市渡内三丁目 563 番 1 外	(第3地点) 古代住居址、近世溝、竪穴状遺構などを検出。直接城の一部の施設と考えられる遺構は見つかっていない。(第4地点) 建物址・溝・土坑などを検出。近世の福原家屋敷地の変遷が明らかとなった。	61
		藤沢市渡内三丁目 563 番	南側に開口する平坦部奥に位置し、中世～近世の掘立柱建物址や、段切り状遺構を検出。	62
大庭城	大庭城址	藤沢市大庭	確認調査。丘陵全体が包蔵地と確認される。 掘立柱建物址・堀切 7 基・土橋などを検出。大庭城関連の遺構と想定される。	63 64
	大庭城址公園内遺跡	藤沢市大庭 6264 番ほか	南から I～IV郭に分けられ、IV郭では堀切・土壘・郭状遺構などを検出。	65
	西部 211 地点遺跡	藤沢市大庭	空堀・土橋・掘立柱建物址を検出。	66

逗子市

名称	遺跡名	所在地	概 要	文献番号
岩殿寺城郭遺構	逗子市No. 71 遺跡	逗子市久木	谷戸奥の山腹の岩殿寺を中心とし、それを取り囲む標高 50 m 前後の丘陵地形を利用した防御遺構。表面調査では、丘陵上に堀切状遺構、平場、塚状遺構が確認される。	67
神武寺城郭遺構	逗子市No. 73 遺跡	逗子市沼間	1981・1982 年度に測量調査が実施される。神の岳とこんぴら山を中心として防御遺構が構築されている。報告書では、神武寺が自衛の必要上城郭としたか、近隣の豪族が城郭として構築したかのいずれかであろうとしている。	68
		逗子市沼間四丁目 1320 番 14	幼稚園建設に伴い調査が実施される。柱穴状遺構が検出される。	69
住吉城	住吉城趾	逗子市小坪	主郭は、平面馬蹄形の平場の「げんじがやと」を中心にして、これを取り囲む尾根上と山腹に数段の平場が確認される。部分的に切岸状遺構、土壘状遺構も確認できる。1964 年の湘南有料道路(現国道 134 号線)の開削により地形が大きく改変される。1979 年に測量調査が実施される。	70
		逗子市小坪五丁目 55 番 1、 240 番	2000 年度と 2002 年度に住宅建設に伴い「げんじがやと」「ぼんばたけ」内で調査が実施される。遺物は、かわらけ、国産陶器、石製品等が出土している。遺構は、土壘状遺構、溝状遺構、ピット、土丹面が検出されている。遺物は、かわらけ国産陶器等が出土している。	71
		逗子市小坪五丁目 240 番ほか	2002 年度に「ぼんばたけ」でトレンチ調査が実施された。調査では、土壘状遺構・溝状遺構・ピットが検出された。遺物は、国産陶器が出土。	72

名越切通	逗子市久木・小坪七丁目 1245番1、九丁目1867番 ほか	鎌倉北条氏が、三浦一族に対する鎌倉の防衛上の要害地として防御遺構が構築される。やぐら群の分布・形状が報告。	73
		保存管理計画の立案に先立ち、トレンチ調査が実施される。尾根上と山腹の平場でのトレンチ調査が実施される。遺物は、かわらけ・国産陶器などが出土した。	74
		1996年度に開発に先立つ範囲確認調査として、尾根上と山腹の平場でのトレンチ調査が実施された。礎石・溝状遺構・柱穴・石列・葬送遺構・土坑などが検出された。遺物は、かわらけ・舶載磁器・国産陶器などが出土した。	75
		2001年と2002年度史跡整備のために、尾根上と山腹の平場でのトレンチ調査が実施され、礎石・溝状遺構・柱穴・石列・葬送遺構・土坑などが検出された。遺物は、かわらけ・舶載磁器・国産陶器などが出土した。	76

相模原市

名称	遺跡名	所在地	概要	文献番号
橋本城	橋本遺跡	相模原市元橋本町、橋本7番	テラス状遺構、柵列、掘立柱建物跡、地下式坑を合わせて砦のようなものを考慮すべきと思われ、橋本城と称されていた可能性もある。	77
津久井城	津久井城I	相模原市津久井町根小屋字城坂223番ほか	御屋敷跡の調査では堀・建物址・石列・土坑群などを検出。津久井城関連から陣屋関連施設への移行が確認される。	78
	津久井城II	相模原市津久井町根小屋字城坂223番ほか	御屋敷跡、しんでんの調査。御屋敷跡では土壘とそれに並行する石列を検出。	79
	津久井城III	相模原市津久井町根小屋字城坂223番ほか	御屋敷跡1号堀の続き、2号堀・土坑・煙硝倉などを検出	80
	津久井城IV	相模原市津久井町根小屋字城坂223番ほか	東曲輪で柱穴群を検出し、焼土の広がりや鉄滓の出土などから鍛冶関連施設が近接することが指摘される。	81
	津久井城V	相模原市津久井町根小屋字城坂223番ほか	I～IVまでの調査区を再調査。	82
	津久井城VI	相模原市津久井町根小屋字城坂223番ほか	御屋敷跡の周辺曲輪が御屋敷跡の防御の役割を担っていたことが想定される。	83
	津久井城VII	相模原市津久井町根小屋字城坂223番ほか	御屋敷跡の虎口や破城の痕跡と推定される痕跡などを検出。	84
	津久井城VIII	相模原市津久井町根小屋字城坂223番ほか	御屋敷跡の東南曲輪群などの測量調査。	85
	津久井城IX	相模原市津久井町根小屋字城坂346番付近	東側馬場で上下2段に連ねた箱堀を検出。馬場でも城破りの痕跡が検出される。	86
	津久井城X	相模原市津久井町根小屋字城坂346番	東側馬場で、北から南へ向かう堅堀、礫溜まり、溝を検出。	87

津久井城	津久井城 根小屋地区遺跡群	相模原市津久井町根小屋字 251番・252番ほか	しんでんの調査で、虎口遺構、礎石建物跡・掘立柱建物跡などを検出。	88
------	------------------	-----------------------------	----------------------------------	----

三浦市

名称	遺跡名	所在地	概要	文献番号
新井城	新井城跡	三浦市三崎町小網代	大型の掘立柱建物が、3時期にわたって検出。また、多量の人骨や焼土層を確認。 15世紀末から16世紀代の陶磁器が出土。	89

秦野市

名称	遺跡名	所在地	概要	文献番号
波多野氏館跡	東田原中丸遺跡	秦野市東田原	四面庇を有する総柱建物を主体として、舶載陶磁など優品も多く出土すること から在地領主波多野氏の居館跡と推定されている。	90
波多野城址	波多野城址	秦野市立東中学校	1～7次まで調査。溝状遺構・井戸址などを検出した。城が小附にあったとさ れるが、主体になったのは別部分と想定される。	91

厚木市

名称	遺跡名	所在地	概要	文献番号
	小野若宮遺跡	厚木市小野字若宮	中国磁器・宋銭などが出土。館跡と考えられる。	92
	御屋敷添遺跡第3地点	厚木市愛甲御屋敷添 365番1 ほか	竪穴状遺構・地下式坑・溝・土坑・ピット、4m幅の溝→屋敷地内の区画溝か。	93
七沢城	七沢神出遺跡	厚木市字神出一丁目 330番1 ほか	掘立柱建物址、竪穴状遺構、地下式坑、溝状遺構、土坑などを検出。扇ガ谷上 杉氏関連の遺構か。	94

大和市

名称	遺跡名	所在地	概要	文献番号
上和田城	上和田城山遺跡	大和市上和田 2557番	城跡は、成立時期、存続期間、領有は不明である。1977年に調査が行われ、火 葬墓、地下式坑が検出されている。遺物は、かわらけ、鉄製品が出土している。 城郭に直接結びつく遺構は検出されていない。	95
		大和市上和田 2557番	1991年に調査が行われ、道状遺構・溝状遺構が検出されている。遺物は、国 産陶器、銭貨が出土している。城郭に直接結びつく遺構は検出されていないが、 道状遺構と溝状遺構の延長上に城跡があると推定される。	96
下鶴間城	下鶴間城山 伝山中修理助貞信壘	大和市下鶴間甲四号 727番2 ほか	山中修理助貞信壘との伝承がある城跡で、土壘・腰郭・堀状遺構・掘立柱建物址・ 柵列・地下式坑・土坑・溝状遺構・柱穴が検出されている。遺物は、舶載磁器・ 国産陶器・石製品(茶臼)等、15世紀代のものが出土している。	97

深見城	深見城趾	大和市深見 74 ほか	境川により形成された河岸段丘上に立地している。1984～86年度にトレンチ調査が、主郭・外郭・内堀・外堀・天竺坂堀で実施された。調査では、主郭西虎口と東虎口で礎石と推定される平石、箱堀状の堀、土橋、地業層が確認された。遺物は、14世紀～16世紀の陶磁器が出土している。	98
		大和市深見 74 ほか	1999～2000年にトレンチ調査が、主郭・内堀・外郭・天竺坂堀で実施される。井戸・土坑・竪穴状遺構・ピットが検出されている。遺物は、14世紀～16世紀の陶磁器が出土している。	99
	長堀南遺跡	大和市下鶴間乙五号 2702 番	遺跡の東側に隣接する深見城に関連を想定される溝状遺構・貼床状遺構が検出された。	100

伊勢原市

名称	遺跡名	所在地	概要	文献番号
上杉定正館	御伊勢森遺跡 (伝上杉定正館跡)	伊勢原市上粕屋字御伊勢ノ森	大溝・道路状遺構など検出。大溝の存在から防御的な機能を伴う居館の一部と推定される。	101
丸山城	第1東海自動車道遺跡No.9・39	伊勢原市大字上粕屋字小山250番5ほか、241番1ほか	中世後半期と思われる大規模な溝を検出。扇ガ谷上杉氏か後北条関連の施設か。	102
	弥杉・上ノ台遺跡	伊勢原市下糟屋123番外	テラス状遺構・道状遺構・ピット・土坑などを検出。直接城と結びつくような遺構はない。	103
	丸山城	伊勢原市	土塁が巡り、幅16m以上の障子堀を確認。	104
	成瀬第2地区遺跡群下糟屋C地区第1地点、D地区、丸山E地点	伊勢原市下糟屋	C: 竪穴状遺構・地下式坑・区画墓・墓坑・道路遺構。D: 幅8～15m、深さ3～4mの規模の堀切・土塁など。丸山E: 道路・溝状遺構・土坑・L字状掘立柱建物群・竪穴状遺構・ピットなど検出。地区ごとに様相の異なる状況が明らかにされた。	105
	下糟屋C地区第2地点	伊勢原市下糟屋	C第2: 竪穴状遺構・掘立柱建物址・ピット・地下式坑・溝状遺構・土坑・墓坑。C第3: 竪穴状遺構・地下式坑・かわらけ焼成遺構・土坑・墓坑・銭貨埋納遺構・溝状遺構・段切り等を検出。	106
	上粕屋・〆引北遺跡	伊勢原市大字上粕屋字〆引907番ほか	〆引北地点において、堀によって囲まれた中に土橋・柵列・門跡・掘立柱建物址などを検出。井戸の中から太刀や懸仏などが出土。武士の館跡と想定される。	107

海老名市

名称	遺跡名	所在地	概要	文献番号
	上浜田遺跡	海老名市大谷	斜面を二段に造成して営まれた中世建物群が検出される。時期は13世紀中葉～14世紀末とされ、溝や柵列によって区画され、豊富な舶載磁器が出土。渋谷氏関連か。	108

南足柄市

名称	遺跡名	所在地	概 要	文献番号
浜居場城	浜居場城跡	南足柄市内山及び矢倉沢	トレント調査により、堀が検出されている。また、部分的ながら主郭・西廓は自然地形を利用した平場と堀の造成がなされていることが確認されている。	109
沼田城	沼田城址	南足柄市沼田字牛ヶ窪 597 番付近ほか	2 本のトレントで堀（北大空堀）を検出。堀の傾斜角は 47 度で、埋土の堆積状況から土壘の一部を壊し、埋め立てたことが認められている。	110
		南足柄市沼田字城山 421 番 1	堀（A・B）・土坑・柱穴等が検出されている。堀 A は箱堀に近く確認面幅 3.5m、堀底幅 2.1m、深さ 90 cm を測り、掘方より 20 cm 上部に硬化面が確認され、道路としての利用も認められた。	111

綾瀬市

名称	遺跡名	所在地	概 要	文献番号
早川城	早川城跡	綾瀬市早川字清水 934 番外	堀切り・土壘・物見塚・曲輪・堀等を検出。堀は箱堀の様相を呈し、主郭北・東・南に土壘が築成されていた。また腰廊からは掘立柱建物が見つかっている。	112
	宮久保遺跡	綾瀬市早川字新堀淵 2031 番外	武士階層の居館とされる。柵列で囲まれた数多くの掘立柱建物・溝・井戸等が検出されている。中でも 4 × 2 間の 24 号掘立柱建物と 4 × 3 間の 23 号掘立柱建物が主屋としている。	113

松田町

名称	遺跡名	所在地	概 要	文献番号
松田城	松田城址	足柄上郡松田町松田庶子字城山 3113 番ほか	空堀・堀切・豎堀・溝状遺構・掘立柱建物・井戸・地下式坑等の遺構を検出。上・中・下段の曲輪からなる。	114

山北町

名称	遺跡名	所在地	概 要	文献番号
河村城	河村城跡	足柄上郡山北岸	16 m をこえる大型の堀切をはじめ、郭の構成や内部の施設等、城郭の全体像が明らかとなった。	115 116

小田原市の中世城館について

現在全国的に中世城館研究が活発化する中で、関東においても後北条氏時代の城館をはじめ、多くの調査例、議論が行われ始めている。神奈川県についても後北条氏の本城である小田原城など数多くの中世城館が存在し、発掘調査が行われているため、本年度より中世城館調査例の集成から行うことになった。

集成表については県内各市町村を対象にしているが、小田原市については小田原城の調査地点例が数多く存在し、資料的にも膨大な数量となるため、紙幅の関係上今年度は集成表を見送り、小田原市の中世城館についてその概要を示すこととした。

（1）小田原城

小田原城の調査は、1995年に刊行された『小田原市史 別編城郭』において集成が試みられているが、その後の調査事例増加に伴い『小田原城下 本町遺跡第Ⅲ地点』（2008年）の中で最新の調査地点集成表が作成されている。以下この集成表に基づき、若干の解説を加える。

小田原城は、伊勢宗瑞（北条早雲）以降後北条氏の本城として関東支配の拠点となった城郭である。2008年3月まで城下を含めて調査地点は314ヶ所にのぼり（試掘含む）、現在の本丸・二の丸・三の丸・八幡山古郭・三の丸外郭・総構・城下といった地域に大別できる。特に二の丸・三の丸周辺では後北条期の障子堀や近世期に築かれた石垣などが見つかっているほか、家臣の屋敷地とされる遺構も検出されている（住吉堀・御用米曲輪・屋敷曲輪・大久保雅楽介邸跡・藩校集成館跡など）。総構では、特に伝肇寺西第Ⅰ地点で上幅16.5mもの巨大な障子堀が検出され、その土木技術の高さが注目されている。

（2）石垣山城

天正18年(1590)に豊臣秀吉と後北条氏による小田原合戦の際に、秀吉が陣城としたのが石垣山城である。地元民に「一夜城」と親しまれているこの城は、現在も曲輪や石垣の跡が明瞭に残されている。

石垣山城は主に測量・詳細分布調査及び発掘調査が行われており、その内容は『史跡 石垣山』としてⅠ～Ⅲの報告書にまとめられている。発掘調査は、第1～10地点のトレーンチを設定し本城曲輪を中心とした曲輪群に入れており、曲輪の盛土造成を検出している。また、瓦片が出土し、特に第6地点では瓦葺きの建物の存在を想定しているほか、天守台付近に設定された第10地点では瓦の出土から、瓦葺きの天守があった可能性を指摘している。

瓦については、天守台周辺の崩落した石垣周辺より、数多く表面採取されている。その中で、天正19年(1591)の銘が刻まれている平瓦が採集されており、石垣山城の作事について貴重な資料と評価されている。

（3）下堀方形居館

下堀方形居館は小田原市下堀に所在し、中世土豪であった志村氏居館と言われている。現在も部分的に土塁が残るほか、堀は用水路として利用されている。かながわ考古財団が2006・2008年に調査を行ったが、現在整理途中のため、調査概報及び現地説明会資料より概観しておく。

調査では堀、溝、井戸、土抗などが検出され、中世の船載磁器（青磁）や国産陶器（常滑焼など）、漆器（椀・蓋・櫛）などが見つかっている。特に堀については、現在用水路として利用されているものよりもさらに広い堀であった可能性が指摘されている。

小田原市の中世城館で、調査が行われ報告書及び概報等が出されているものについて概観を行った。特に小田原城については数多くの調査成果が報告書として刊行されている。今後の作業の中で、これらの調査成果の集成及び検討方法については次回までの課題としておきたい。

参考文献

横浜市

- 1 坂本彰 他 1991『茅ヶ崎城』横浜市埋蔵文化財センター
- 2 坂本彰 他 1994『茅ヶ崎城Ⅱ』財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会
- 3 坂本彰・伊藤薰 2000『茅ヶ崎城Ⅲ』財団法人横浜市ふるさと歴史財団
- 4 鹿島保宏・鈴木重信 2006『茅ヶ崎城址埋蔵文化財本発掘調査報告』財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市環境創造局
- 5 草柳卓治・平子順一 1981『長尾台遺跡調査報告書』横浜市教育委員会

川崎市

- 6 赤星直忠 1966『川崎市小沢城』川崎市文化財調査集録2 川崎市教育委員会

横須賀市

- 7 小出義治 1981『住吉遺跡発掘調査報告書』神奈川県土木部・住吉遺跡調査団
- 8 赤星直忠 1982『衣笠城跡・後山遺跡』日本道路公団・横浜横須賀道路埋蔵文化財発掘調査団
- 9 赤星直忠 1987『衣笠城跡』横須賀市文化財調査報告書第15集 横須賀市教育委員会
- 10 中三川昇 1993『横須賀市文化財発掘調査概報集Ⅱ 衣笠城』横須賀市文化財調査報告書第27集 横須賀市教育委員会
- 11 中三川昇 1993『横須賀市文化財発掘調査概報集VII 衣笠城』横須賀市文化財調査報告書第33集 横須賀市教育委員会
- 12 軽部一一・川上久夫 1998『衣笠城跡 尾崎南地区遺跡』衣笠城跡尾崎南地区遺跡調査団
- 13 中三川昇 1993『横須賀市文化財発掘調査概報集Ⅱ 衣笠城』横須賀市文化財調査報告書第27集 横須賀市教育委員会
- 14 上田薰・木村吉行 2002『佐原城跡遺跡』かながわ考古学財団調査報告 130
- 15 斎藤真一・宮井香 2008『佐原城跡遺跡Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告 228
- 16 佐藤明生 1996『太多和館跡』横須賀市文化財調査報告書第30集 横須賀市教育委員会
- 17 野内秀明 1999『吉井城山』横須賀市文化財調査報告書第34集 横須賀市教育委員会

平塚市

- 18 難波明・関恒久ほか 1985『相模岡崎城跡総合調査報告書』平塚市教育委員会
- 19 栗山雄揮 1996「岡崎城跡A第2地点」『林B遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ28 平塚市教育委員会
- 20 青地俊朗 1991「岡崎城跡B」『諏訪前A・十七ノ城遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ18 平塚市教育委員会
- 21 安藤文一ほか 1982『桜畠遺跡』平塚市
- 22 青地俊朗 1989「桜畠遺跡隣接地」『平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書』2 平塚市教育委員会
- 23 若林勝司 1992「桜畠遺跡第5地点」『天神前・桜畠遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ21 平塚市教育委員会
- 24 青地俊朗 1990『山王久保遺跡』平塚市埋蔵文化財シリーズ17 平塚市教育委員会
- 25 上原正人 1994「山王久保遺跡、岡崎城跡B第5地点」『諏訪前A・道半地遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ26 平塚市教育委員会
- 26 栗山雄揮 1996「山王久保遺跡第7地点、岡崎城跡B」『林B遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ28 平塚市教育委員会

- 27 大川清・河野一也ほか 1988『御所ヶ谷遺跡』 日本窯業史研究所
- 28 青地俊朗 1988「片岡遺跡」『平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書』1 平塚市教育委員会
- 29 青地俊朗 1990「片岡遺跡第1・2地区」『梶谷原・高林寺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ16 平塚市教育委員会・平塚市遺跡調査会
- 30 田尾誠敏 1996「今宮遺跡」『東海大学校地内遺跡調査団報告』6 東海大学校地内遺跡調査委員会
- 31 田尾誠敏 1994「大久保遺跡発掘調査報告」『東海大学校地内遺跡調査団報告』2 東海大学校地内遺跡調査委員会
- 32 常木晃 1990「王子ノ台遺跡」『東海大学校地内遺跡調査団報告』1 東海大学校地内遺跡調査委員会
- 33 秋田かな子 1995「王子ノ台遺跡・真田大原遺跡」『東海大学校地内遺跡調査団報告』5 東海大学校地内遺跡調査委員会
- 34 日野一郎・関根孝夫ほか 1983『真田・北金目遺跡詳細分布確認調査報告』 真田・北金目遺跡調査団
- 35 若林勝司ほか 2001『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』2 都市基盤整備公団
- 36 河合英夫ほか 2003『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』4 都市基盤整備公団
- 37 若林勝司ほか 2008『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』6 独立行政法人都市再生機構
- 38 林原利明ほか 1995『田村館跡』 田村館発掘調査団
- 39 村山昇・明石新ほか 1985『豊田本郷』 豊田本郷遺跡発掘調査団
- 40 若林勝司 1989「南金目堀の内館遺跡」『諏訪前B・大繩橋遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ13 平塚市教育委員会
- 41 若林勝司 1993「堀ノ内館跡第2地点」『平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書』6 平塚市教育委員会
- 42 小川裕之 2000『上吉沢市場地区遺跡群発掘調査報告書』 平塚市
- 43 小島弘義 1988「四之宮高林寺遺跡（第7地点）」『諏訪前B・高林寺』平塚市埋蔵文化財シリーズ6 平塚市教育委員会
- 44 小島弘義 1990「高林寺遺跡第9地点」『梶谷原・高林寺遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ16 平塚市教育委員会
- 45 小島弘義 1999「高林寺遺跡第12地点」『高林寺遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ33 平塚市教育委員会

鎌倉市

- 46 河野真知郎ほか 1990『今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書』 今小路西遺跡発掘調査団・鎌倉市教育委員会
- 47 原廣志ほか 1994「浄明寺三丁目143番2地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10（第2分冊）』鎌倉市教育委員会
- 48 宮田真 1996『公方屋敷跡発掘調査報告書』 浄明寺三丁目151番1外地点』 公方屋敷跡発掘調査団
- 49 馬淵和雄ほか 2002『杉本寺周辺遺跡群 二階堂字杉本912番1ほか発掘調査報告書』 杉本寺周辺遺跡群発掘調査団・鎌倉市教育委員会
- 50 宮田真 2000『玉繩城跡発掘調査報告書』 玉繩城跡発掘調査団
- 51 大河内勉 1988「玉繩城跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4』 鎌倉市教育委員会
- 52 大河内勉 1994『玉繩城跡発掘調査報告書』 植木字相模陣374番他地点』 玉繩城跡発掘調査団
- 53 大河内勉 1999「城廻字清水小路673番10地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15（第2分冊）』鎌倉市教育委員会

- 54 大河内勉 2001「城廻字中村 473 番8」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 17(第2分冊)』 鎌倉市教育委員会
55 原廣志ほか 2004「植木字植谷戸 70 番1外」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 20(第1分冊)』 鎌倉市教育委員会
56 繼実 2004「植木字植谷戸 198 番の一部」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 20(第1分冊)』 鎌倉市教育委員会
57 原廣志ほか 2006「植木字相模陣 425 番3外」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 22』 鎌倉市教育委員会
58 大畠明子 1999「玉縄城址(No.63) 植谷戸地点発掘調査報告書」『東国歴史考古学研究所所報』第3号東国歴史考古学研究所
59 福田誠 2005「北条時房・頸時邸跡 雪ノ下一丁目 264 番4地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 21(第1分冊)』 鎌倉市教育委員会

藤沢市

- 60 飯塚美保ほか 2006『御弊山遺跡』かながわ考古学財団調査報告 202
61 滝澤友子ほか 2007『二伝寺砦遺跡 第3地点・第4地点』株式会社盤古堂
62 秋山重美ほか 1996『神奈川県藤沢市二伝寺砦遺跡発掘調査報告書』二伝寺遺跡発掘調査団
63 奥田直栄 1968『第1次大庭城址発掘調査概報』大庭城址発掘調査団
64 奥田直栄 1968『第2次大庭城址発掘調査概報』大庭城址発掘調査団
65 寺田兼方 1975『大庭城山遺跡発掘調査概報』藤沢市文化財調査報告第10集 藤沢市教育委員会
66 加藤信夫ほか 1991『大庭城址公園内遺跡発掘調査報告書』大庭城址公園整備事業区域内埋蔵文化財発掘調査会

逗子市

- 67 佐藤仁彦・菊池信吾 2004『埋蔵文化財試掘確認調査報告2(平成12~14年度) 岩殿寺城郭遺構(逗子市No.71)』神奈川県逗子市埋蔵文化財調査報告書3 逗子市教育委員会
68 赤星直忠 1983『神武寺の城郭遺構』逗子市文化財調査報告書第十二集 逗子市教育委員会
69 佐藤仁彦・菊池信吾 2004『埋蔵文化財試掘確認調査報告2(平成12~14年度) 神武寺城郭遺構(逗子市No.73)』神奈川県逗子市埋蔵文化財調査報告書3 逗子市教育委員会
70 赤星直忠ほか 1980『逗子市住吉城址』逗子市教育委員会
71 佐藤仁彦・菊池信吾 2004『埋蔵文化財試掘確認調査報告2(平成12~14年度) 住吉城址(逗子市No.16)』神奈川県逗子市埋蔵文化財調査報告書3 逗子市教育委員会
72 安藤龍馬・宮田真 2005『住吉城址発掘調査報告書』株式会社博通
73 赤星直忠 1972『名越切通』逗子市文化財調査報告書第三集 逗子市教育委員会
74 赤星直忠 1979『逗子市名越遺跡 -中世の切通・城郭・葬送遺構-』逗子市教育委員会
75 佐藤仁彦 1997『神奈川県逗子市名越遺跡範囲確認調査報告書』逗子市教育委員会
76 佐藤仁彦・菊池信吾ほか 2004『史跡名越切通確認調査報告』神奈川県逗子市埋蔵文化財発掘調査報告書4 逗子市教育委員会

相模原市

- 77 大貫英明・土井永好・青木豊ほか 1986『橋本遺跡VII 歴史時代編』相模原市橋本遺跡調査会
78 津久井城遺跡調査会・津久井城遺跡調査団 1997『津久井城の調査I』
79 津久井城遺跡調査会・津久井城遺跡調査団 1998『津久井城の調査II』
80 津久井城遺跡調査会・津久井城遺跡調査団 1999『津久井城の調査III』

- 81 津久井城遺跡調査会・津久井城遺跡調査団 2000『津久井城の調査IV』
- 82 津久井城遺跡調査会・津久井城遺跡調査団 2001『津久井城の調査V』
- 83 津久井城遺跡調査会・津久井城遺跡調査団 2002『津久井城の調査VI』
- 84 津久井城遺跡調査会・津久井城遺跡調査団 2004『津久井城の調査VII』
- 85 津久井城遺跡調査会・津久井城遺跡調査団 2005『津久井城の調査VIII』
- 86 相模原市教育委員会 2007『津久井城の調査IX』
- 87 相模原市教育委員会・津久井城遺跡調査団 2008『津久井城の調査X』
- 88 池田治ほか 2004『津久井城根小屋地区遺跡群』かながわ考古学財団調査報告 166

三浦市

- 89 武藤康弘 1997『新井城』東京大学構内遺跡調査研究年報 1996年度 東京大学埋蔵文化財調査室

秦野市

- 90 霜出俊浩 2004『秦野の遺跡1 東田原中丸遺跡 2000-03』秦野市教育委員会
- 91 秦野市教育委員会 1991『波多野城址発掘調査報告書』秦野の文化財 27

厚木市

- 92 日野一郎・江藤昭 1976『小野若宮遺跡』厚木市小野若宮遺跡調査団
- 93 西川修一ほか 1998『御屋敷添遺跡第3地点・第4地点・第5地点・高森一の崎遺跡・高森窪谷遺跡』かながわ考古学財団調査報告 33
- 94 七沢神出遺跡発掘調査団 1994『七沢神出遺跡発掘調査報告書』

大和市

- 95 中村喜代重・曾根博明 1979『上和田城山』大和市文化財調査報告書第2集 大和市教育委員会
- 96 有馬多恵子ほか 1994『上和田城山遺跡 第4次調査』大和市上和田城山遺跡調査会
- 97 堀田孝博ほか 1998『下鶴間城山』大和市文化財調査報告書第66集 大和市教育委員会
- 98 大和市教育委員会 1988『深見城趾』大和市文化財調査報告書第30集
- 99 戸田哲也・高橋勝也・小笠原清 2001『大和深見城跡発掘調査報告書』大和市教育委員会
- 100 小林義典ほか 1987『長堀南遺跡発掘調査報告書』大和市北部処理場建設予定地内遺跡調査団

伊勢原市

- 101 吉田章一郎ほか 1979『神奈川県伊勢原市御伊勢森遺跡（伝上杉定正館跡）の調査』御伊勢森遺跡発掘調査団
- 102 西川修一・天野賢一・堀田孝博 1999『上粕屋・小山遺跡（No.9・39）三宮下御領原遺跡（No.12西）上粕屋・〆引東遺跡（No.40）上粕屋・〆引南遺跡（No.41）』かながわ考古学財団調査報告 52
- 103 田尾誠敏・宮田明子 1995『伊勢原市下糟屋 弥杉・上ノ台遺跡－東海大学健康科学部校舎建設に先立つ調査－』東海大学校地内遺跡調査委員会
- 104 井上淳ほか 1987『成瀬第2地区遺跡群詳細分布調査概報』伊勢原市教育委員会
- 105 小松清ほか 2002『成瀬第2地区遺跡群下糟屋C地区第1地点 D地区・丸山E地区発掘調査報告』成瀬第2地区遺跡調査会・都市基盤整備公団
- 106 小松清ほか 2001『成瀬第2地区遺跡群下糟屋C地区第2地点・第3地点発掘調査報告書』成瀬第2地区遺跡調査会・都市基盤整備公団
- 107 宮戸信悟・宮坂淳一・三瓶裕司 1999『上粕屋・上尾崎遺跡（No.10）上粕屋・〆引北遺跡（No.11）上粕屋・〆

引西遺跡(No.12 東)』かながわ考古学財団調査報告 56

海老名市

108 神奈川県教育委員会 1979『上浜田遺跡』 神奈川県立埋蔵文化財調査報告 15 神奈川県教育庁社会教育部文化財保護課

南足柄市

109 南足柄市教育委員会 1992『浜居場城跡－その測量と発掘調査の記録－』

110 南足柄市教育委員会 1975『南足柄市文化財調査報告書－沼田城址－』

111 沼田城跡発掘調査団 1995『沼田城跡発掘調査概要報告書』

綾瀬市

112 小滝勉ほか 1997『早川城跡発掘調査報告書』 早川城跡調査会

113 國平健三ほか 1988『宮久保遺跡Ⅱ』 神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告

松田町

114 東海自動車道松田町内埋蔵文化財発掘調査団・松田城址発掘調査団 1989『松田城址』

山北町

115 砂田佳弘ほか 2007『河村城跡』 神奈川県山北町文化財調査報告 1 神奈川県足柄上郡山北町教育委員会

116 砂田佳弘ほか 2008『河村城跡』 神奈川県山北町文化財調査報告 2 神奈川県足柄上郡山北町教育委員会

小田原市

塙田順正ほか 1991『史跡石垣山Ⅰ－1988年度測量調査報告－』 小田原市教育委員会

塙田順正ほか 1992『史跡石垣山Ⅱ－1989年度詳細分布調査報告－』 小田原市教育委員会

塙田順正ほか 1993『史跡石垣山Ⅲ－1990年度詳細分布調査－』 小田原市教育委員会

小笠原清ほか 1995『小田原市 別編城郭』 小田原市

財団法人かながわ考古学財団 2007『小田原市下堀地区 No271 遺跡・No272 遺跡成田地区 No273 遺跡発掘調査概報』 財団法人かながわ考古学財団

諫訪間順ほか 2008『小田原城下 本町遺跡第Ⅲ地点』 小田原市教育委員会